

『ミツバチの秘密』 訂正とお詫び

下記の箇所に誤りがございました。訂正するとともに深くお詫び申し上げます。

株式会社 緑書房

訂正箇所	誤	正																																
p.29 上段5行目	20～40g	20～40mg																																
p.33 図23	蓮の葉の上から池の水を飲むセイウミツバチの働きバチ	スイレンの葉の上から池の水を飲むセイウミツバチの働きバチ																																
p.75 上段右から5～7行目	2008～2009年には、オーストラリアでのノゼマ病流行により女王バチの輸出停止が行われ、同国に依存していた日本では輸入件数がゼロとなりました。	2008～2009年には、オーストラリア政府が自主的に女王バチの輸出を見合わせたことで、同国に依存していた日本では輸入件数がゼロとなりました。																																
p.83 表1 右端の女王バチ	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>発育期</th> <th>女王バチ</th> <th>働きバチ</th> <th>女王バチ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>卵</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>幼虫</td> <td>5.5</td> <td>6</td> <td>5.5</td> </tr> <tr> <td>蛹</td> <td>6.5</td> <td>12</td> <td>6.5</td> </tr> </tbody> </table>	発育期	女王バチ	働きバチ	女王バチ	卵	3	3	3	幼虫	5.5	6	5.5	蛹	6.5	12	6.5	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>発育期</th> <th>女王バチ</th> <th>働きバチ</th> <th>女王バチ オスバチ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>卵</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>幼虫</td> <td>5.5</td> <td>6</td> <td>5.5 7</td> </tr> <tr> <td>蛹</td> <td>6.5</td> <td>12</td> <td>6.5 14</td> </tr> </tbody> </table> <p>・女王バチをオスバチに変更。 ・発育期間：幼虫7日、蛹14日に変更</p>	発育期	女王バチ	働きバチ	女王バチ オスバチ	卵	3	3	3	幼虫	5.5	6	5.5 7	蛹	6.5	12	6.5 14
発育期	女王バチ	働きバチ	女王バチ																															
卵	3	3	3																															
幼虫	5.5	6	5.5																															
蛹	6.5	12	6.5																															
発育期	女王バチ	働きバチ	女王バチ オスバチ																															
卵	3	3	3																															
幼虫	5.5	6	5.5 7																															
蛹	6.5	12	6.5 14																															
p.86 下段6行目	核膜	角膜																																
p.100 表3 ミツバチおよびアシナガバチの1種のLD50	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>種</th> <th>LD50 (mg/kg)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>セイウミツバチ</td> <td>2.8</td> </tr> <tr> <td>オオスズメバチ</td> <td>4.1</td> </tr> <tr> <td>キロスズメバチ</td> <td>3.1</td> </tr> <tr> <td>アシナガバチの1種</td> <td>2.4</td> </tr> </tbody> </table>	種	LD50 (mg/kg)	セイウミツバチ	2.8	オオスズメバチ	4.1	キロスズメバチ	3.1	アシナガバチの1種	2.4	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>種</th> <th>LD50 (mg/kg)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>セイウミツバチ</td> <td>2.8 28</td> </tr> <tr> <td>オオスズメバチ</td> <td>4.1</td> </tr> <tr> <td>キロスズメバチ</td> <td>3.1</td> </tr> <tr> <td>アシナガバチの1種</td> <td>2.4 24</td> </tr> </tbody> </table> <p>・ミツバチのLD50を28mg/kg、アシナガバチ1種のLD50を24mg/kgに変更</p>	種	LD50 (mg/kg)	セイウミツバチ	2.8 28	オオスズメバチ	4.1	キロスズメバチ	3.1	アシナガバチの1種	2.4 24												
種	LD50 (mg/kg)																																	
セイウミツバチ	2.8																																	
オオスズメバチ	4.1																																	
キロスズメバチ	3.1																																	
アシナガバチの1種	2.4																																	
種	LD50 (mg/kg)																																	
セイウミツバチ	2.8 28																																	
オオスズメバチ	4.1																																	
キロスズメバチ	3.1																																	
アシナガバチの1種	2.4 24																																	
p.100 下段3～11行目	毒の強さを表すマウスに対するLD50は、セイウミツバチで2.8mg/kgです。LD50とは、その物質を投与された動物の半数が24時間以内に死亡する毒の量です。他のハチのLD50は、オオスズメバチで4.1mg/kg、アシナガバチで2.4mg/kgなので、毒の強さはオオスズメバチの約半分、アシナガバチとほぼ同等であることがわかります(表3)。	毒の強さを表すマウスに対するLD50は、セイウミツバチで28mg/kgです。LD50とは、その物質を投与された動物の半数が24時間以内に死亡する毒の量です。他のハチのLD50は、オオスズメバチで4.1mg/kg、アシナガバチで24mg/kgなので、毒の強さはオオスズメバチの7分の1、アシナガバチとほぼ同等であることがわかります(表3)。																																
p.108 下段 見出し	カースト間での体のサイズの差はほぼなし	カースト間での体のサイズの差はほぼなし																																
p.121 下段9行目	花粉団子	花粉団子																																
p.126 下段7行目	未受精卵	未受精卵																																
p.135 上段12行目	紅葉樹	広葉樹																																
p.165 図10	サックブルード病	サックブルード病																																
p.183 下段7行目	千億個あるとされる人の1万分の1	千億個あるとされる人の10万分の1																																
p.188 図内文字	延期の置換	塩基の置換																																
p.197 図4 グラフ内の左側の麦芽糖		<p>・グラフ内の左側の麦芽糖をシヨ糖 1～2%に変更</p>																																
p.201 下段左から1行目	澱粉粉デキストリン	澱粉デキストリン																																
p.204 上段左から3行目	米などをC4植物	「米」を削除																																
p.212 図12	センダングザ	センダングザ																																
p.216 図19 グラフ内の左側の10-ヒドロキシデカン酸		<p>図内の左側の10-ヒドロキシデカン酸は「ジヒドロキシデカン酸 2%」</p>																																
p.216 上段左から3行目	抗炎症作用	抗炎症作用																																
p.226 上段4行目	大正9年(1929年)	大正9年(1920年)																																

訂正箇所	誤	正
p.227 表13	扁桃腺炎	扁桃腺炎
p.227 表13	顔面神経麻痺	顔面神経麻痺
p.227 表13	小便不刺	小便不利
p.228 下段13行目	受粉	授粉
p.229 上段左から1行目、下段5行目、下段7行目、下段10行目、下段左から5行目	受粉	授粉
p.232上段左から3行目	(図41)	(図40)
p.234 図	ひまわり	ヒマワリ
p.234 図	カラスサンショウ	カラスザンショウ
p.236 上段7行目	受粉行動	授粉行動
p.310 下段6行目ルビ	はちくまやまぶぜんじこんごういん	はちくまやまぶぜんじこんごういん
p.324 上段5行目	家蜂養記	家蜂養記
p.324 上段11行目	本草綱目啓蒙	本草綱目啓蒙
p.324 上段13行目	広益国産孝	広益国産孝
p.337 【広島県】県立世羅高等学校 農業経営科(2017、2019)1行目	選好	専攻